



# 北九州市サステナビリティボンド (SDGs未来債)

## 個人投資家の皆さまへ



# SDGs未来都市としての 北九州市の取組



# SDGsの達成に向けて ～日本で一番住みよい街へ～

- 2018年4月に、OECDよりアジア地域では初めて「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定され、同年6月には国より「SDGs未来都市」に選定されるなど、国内外で高い評価をいただいています

## ～「SDGs」とは～

- 2015年9月の国連サミットで、すべての加盟国（193カ国）が採択した国際目標
- 発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む
- 2030年までの目標であり、17の目標（ゴール）の達成を目指している



## ～北九州市と「SDGs」～

- 本市はSDGsの達成に向けて、以下のSDGs戦略をもとに取組を進めています
  - 「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」
- 本市は以下のとおり、国内外で高い評価をいただいています

2017年12月

- 第1回「**ジャパンSDGsアワード**」特別賞を受賞
  - 280団体以上が応募し、12団体が受賞（自治体は本市と下川町のみ）

2018年4月

- OECDより「**SDGs推進に向けた世界のモデル都市**」に選定
  - アジア地域で初めて選定

2018年6月

- 国より「**SDGs未来都市**」「**自治体SDGsモデル事業**」に選定
  - 29都市選定（うちモデル事業10都市）

2018年8月

- 国の「**地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**」の会長に北九州市長が就任




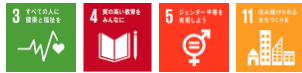

# SDGs未来都市計画で北九州市が目指すもの

- 令和3年3月に、第二期となる「北九州市SDGs未来都市計画」を策定しました。SDGsを原動力に地方創生や地域活性化を図り、「市民生活の質（Quality of Life）の向上」「都市ブランド力の向上」につなげ、「日本一住みよいまち」の実現を目指します

## 北九州市のSDGs戦略（ビジョン）（2030年のあるべき姿）

### 「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

- 上記のSDGs戦略（ビジョン）に基づき、様々な取組を進めていきます

経済	人と環境の調和により、新たな産業を拓く	社会	一人ひとりが行動し、みんなが輝く社会を拓く	環境	世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く
	<ol style="list-style-type: none"><li>先進のまちを目指した新たなビジネスやイノベーションの創出</li><li>地域経済における自律的好循環の形成</li><li>働く場の地方分散・柔軟な働き方の普及</li><li>新たな企業価値を生み出すSDGs経営の普及</li></ol>		<ol style="list-style-type: none"><li>ダイバーシティの推進等による誰もが活躍できる場の創出</li><li>市民参加型の活動による生活の質（QOL）の向上</li><li>市民の健康（幸）寿命の延伸</li><li>変革を支え、リードする教育・人材育成の推進</li><li>感染症に対応した安心して暮らせる社会の構築</li></ol>		<ol style="list-style-type: none"><li>脱炭素エネルギーの安定的な供給体制の構築</li><li>市民・企業との協働による循環システムの構築</li><li>コンパクトなまちの形成によるストック型社会の創造</li><li>技術と経験を生かした国際貢献の推進</li></ol>
	<p>優先的なゴールとKPI</p> 		<p>優先的なゴールとKPI</p> 		<p>優先的なゴールとKPI</p> 
	<ul style="list-style-type: none"><li>従業者一人あたり市内GDP（名目） 現在（2016年）：8,481千円 ⇒ 2030年：9,320千円</li><li>社会動態の増減 現在（2020年）：▲757人 ⇒ 社会動態プラスの早期達成及び維持</li><li>「北九州SDGs登録制度」登録事業者数 現在（2020年3月）：0 ⇒ 2030年：500</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>付属機関等の女性委員の参画率 現在（2020年7月）：付属機関等の女性委員参画率が平均で50%超 ⇒ 2023年：全ての付属機関等の女性委員参画率が50%超</li><li>「子育てしやすいまち」と感じる市民（子育て世代）の割合 現在（2019年）：88.6% ⇒ 2024年：90%以上</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>再生可能エネルギー導入量 現在（2021年3月）：418,000kW ⇒ 2030年：700,000kW</li><li>市民1人一日あたりの家庭ごみ量 現在（2023年）：452g ⇒ 2030年：420g</li><li>ごみのリサイクル率（かん・びん・ペットボトルなど） 現在（2023年）：26.6% ⇒ 2030年：32%</li></ul>

# 北九州市のSDGs施策 ～OECDに評価された優良事例～

- OECDより、「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、国際協力、子ども食堂、洋上風力の事例にて特に高い評価を獲得しています。引き続き、経済・社会・環境の相乗効果により、先進的な取組を継続してまいります

## 国際協力・ビジネス

北九州市は公害克服の経験や技術を活かしアジア地域への国際協力に取り組んできた。さらに「エネルギーマネジメント」「廃棄物処理」「水ビジネス」などの分野を中心にアジア諸都市や企業のニーズに応える「都市インフラ輸出」を進めている

### 国際技術協力

各国へ専門家を派遣  
各国から研修員を受入

- ・経験やノウハウの蓄積、人材育成
- ・人的ネットワークの形成

### グリーンシティ輸出

- 公害克服の経験・ノウハウ
- 環境・エネルギー技術
- 都市間連携等のネットワーク

### 環境姉妹都市・姉妹都市協定締結



### ▶ アジア地域における脱炭素化へ貢献

### 海外水ビジネス

「北九州市海外水ビジネス推進協議会」と連携し  
ベトナム、カンボジアを中心に海外水ビジネスを展開



### 第25回日本水大賞にて大賞を受賞

- 上下水道局の30年以上に亘る国際協力の活動が認められる
- 自治体が海外で実施した取組みでの大賞受賞は初

## 子ども食堂

平成28年度からモデル事業として子ども食堂を実施。平成29年8月には「子ども食堂ネットワーク北九州」を立ち上げ、取組をバックアップ

### 子ども食堂とは

地域の大人が子どもに無料または低額で食事を提供する取組



子ども食堂の様子

### ▶ 孤食の防止、地域の子ども居場所確保

### 子ども食堂ネットワーク北九州

民間を主体とした子ども食堂の活動の支援のため、「子ども食堂ネットワーク北九州」において、情報提供や意見交換、研修、寄付の関係など様々なサポートを行い、子ども食堂関係者の負担を軽減

- 子ども食堂に関する情報提供や意見交換
- 衛生管理に関する研修等
- ボランティアや寄付関係
- 行政団体等との対応

### 子ども食堂の登録制度

市が定める一定の基準をクリアした子ども食堂は「市の事業に準ずる活動をする子ども食堂」として、市民センターを全額減免で利用可能

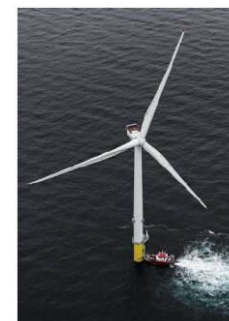
## 洋上風力

若松区響灘地区のポテンシャルを活かし、風力発電関連産業の「総合拠点」の形成に向けた取組を平成23年度から進めている

### 総合拠点とは

風力発電関連産業に必要な4つの拠点機能を集積した「総合拠点」を形成

- 積出・建設
- 物流
- 製造産業
- O&M



### ▶ 関連施設・企業の誘致を進行中

※写真は同型モデルの風車

### 総合拠点のイメージ図



**令和4年度**

**北九州市SDGs未来債の**

**資金使途などのご報告**

**～こんなところに使われています～**



# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について①

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
再生可能エネルギー	■ 響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用した、風力発電関連産業の総合拠点の形成	■ 温室効果ガスの排出削減

## 風力発電関連産業の総合拠点化

R4年度個人向け債の資金が使われています

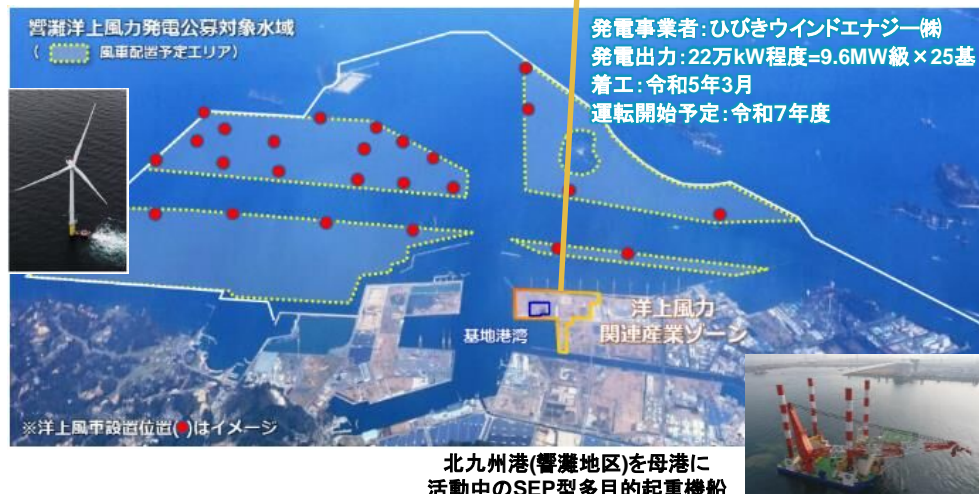
響灘地区港湾（整備実施中）



完成イメージ①



完成イメージ②



## ① 本市の強み ～西日本で唯一の基地港湾～

- 本市は、若松区響灘地区のポテンシャルを活かし、風力発電関連産業の「総合拠点」の形成に向けた取組を平成23年度から進めています。
- この取組により、響灘洋上ウインドファームで年間約22万kWの電力を生み出すとともに、産業や物流、経済の活性化や雇用の創出も目指しています。
- R4年度は、以下の整備事業等を実施しました。
  - ① 響灘東地区に入港するSEP船(※)が岸壁を適切に利用できるよう、海底面の調査や航行安全検討等を行い、必要な整備を実施
  - ② 響灘東地区における企業立地の促進を図るため、用地の整備（道路、水道等の敷設）、区画内の整地等を実施

※SEP船：自己昇降式作業台船

- 引き続き、他都市に先駆けて風力発電関連産業の総合拠点化に取り組むことにより、再生可能エネルギーの活用による温室効果ガスの排出削減に貢献してまいります。

整備面積（響灘東地区SEP船等基地化事業）	0.4ha (全体1.2ha)
整備面積（響灘東地区埋立地整備事業）	5.9ha (全体53.4ha)
響灘地区総合拠点利用ファーム数	5件 (R6年度目標) (R4年度時点2件)
響灘地区総合拠点の産業用地利用率	80% (R6年度目標) (R4年度時点33.1%)

# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について②

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 河川整備</li> <li>■ 上下水道整備 ※持続可能な水資源・排水管理にも該当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水災害など発生時の浸水、土砂被害の緩和</li> <li>■ 水災害など発生時における安全・安定的な水道インフラの供給</li> <li>■ 汚水の放流先の汚濁負荷低減</li> </ul>

## 河川整備

R4年度個人向け債の  
資金が使われています

### 笹尾川



### 相割川



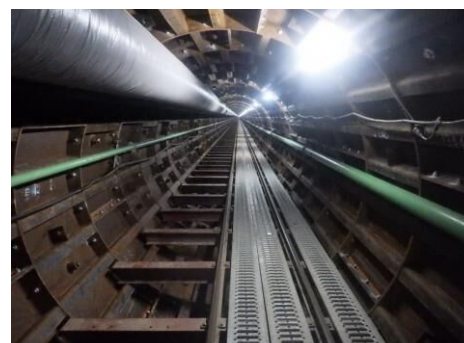
- 浸水被害の軽減、災害が発生した際の市民の命・生活・財産を守るため、河川整備を進めました。
- 河川整備では、笹尾川、相割川、母原川、東谷川等の護岸改修や、長野川の調査・設計、53か所の護岸長寿命化改修等を行いました。

護岸改修距離 合計568m (笹尾川、相割川等)

護岸長寿命化改修 53か所

## 上下水道整備

### 管内施工状況



### 管内完成状況



- 豪雨による浸水被害を減らし、雨に強い安全なまちづくりを進めるため、上下水道整備を進めました。
- 「北九州市上下水道事業基本計画」及び「北九州市上下水道事業中期経営計画」に基づいて、浸水対策整備工事を行いました。

整備件数 8件

整備距離・面積 2,080m



# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について③

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 港湾整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水災害など発生時の浸水、土砂被害の緩和</li> </ul>
汚染の防止及び抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ごみ処理施設等の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大気汚染物質の排出削減</li> <li>■ 水質汚染物質の排出削減</li> </ul>

## 港湾整備

新門司北地区（俯瞰）



新門司北地区（接写）



- 高潮対策（新門司北地区）や泊地の埋没対策（新門司南地区）等、災害を未然に防止するための工事を行いました。
- 「北九州市地域防災計画」及び「北九州市国土強靱化地域計画」に基づいて、自然災害時の安全な通行の確保、安全に利用できる水域面積の確保を企図しています。

護岸整備（新門司北地区）	151m
橋面改良（響灘東地区）	295m
泊地浚渫（新門司南地区）	8,125m <sup>3</sup>
整備件数	8件

## ごみ処理施設等の整備

R4年度個人向け債の資金が使われています

新日明工場 完成予想図



災害ごみの受入れ支援



- 令和5年7月豪雨で被災した福岡県うきは市の災害廃棄物を受け入れ、最大770トンを目明工場と皇后崎工場で処理予定。

- 大規模災害時に大量発生する災害廃棄物にも対応できるよう、焼却工場の安定操業に不可欠な設備で、損耗や経年劣化の激しいものについて、大規模な整備や更新により機能回復を図っています。「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づき、リサイクル率の向上や温室効果ガス削減の取組の一環として整備を進めています。
- 新門司工場、日明工場及び皇后崎工場の機器整備や新日明工場の建設等を進めました。

整備進行中の工場の数	4か所
リサイクル率	30%以上(R7年度見込み)
CO2排出量	60千トン以下(R7年度見込み)

# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について④

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
生物自然資源及び土地利用に係る環境維持型管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 干潟の環境維持</li> <li>■ 多種多様な希少生物の生息地の保全</li> </ul>
エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共施設のエネルギー消費量の削減（公共施設の照明のLED化及び老朽化施設やエネルギー多消費施設における省エネ機器の採用等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 温室効果ガスの排出削減</li> <li>■ エネルギーの利用削減</li> </ul>

## 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）

R4年度個人向け債の資金が使われています

### 曽根・豊岡地区公園整備



- 曽根・豊岡地区は、産業団地エリアと曽根干潟との境界エリアに位置する「緩衝緑地帯」としての役割が求められることから、「環境保全地区」として位置付けられています。また、曽根干潟は、カブトガニの産卵やズグロカモメなど多種類の渡り鳥が飛来する世界でも貴重な生息地として認識されています。

- 曽根・豊岡地区公園整備を始めとする公園整備事業を進め、市内の緑に親しむ公的空間の確保量（一人当たりの都市公園面積）の向上を見込んでいます。（13.00㎡/人）

緑化面積	合計28,205㎡
公園整備面積	合計112,523㎡
市内の緑に親しむ公的空間の確保量（一人当たりの都市公園面積）	13.00㎡/人

## 公共施設のエネルギー消費量の削減

### 市民センター空調改修



### LED照明の設置



### エアコン更新



- 市民センターの空調改修や、道路照明等のLED化、小中学校のエアコン更新等、省エネ性能の高い設備に更新することにより電気使用量及びCO2排出量の削減を図りました。市民センター5館の空調改修により、冷房時消費電力の17%削減を見込んでいます。

市民センターの空調改修	5館
市民センターの冷房時消費電力	17%削減
102個のLED化による消費電力削減	67.0MWh、29.2t-CO2/年
エアコン更新事業（小中学校）	10校

# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について⑤

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特別支援学校整備</li> <li>■ 総合療育センター整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備</li> </ul>

## 特別支援学校整備

R4年度個人向け債の資金が使われています

### 小池特別支援学校 完成予想図



- 小池特別支援学校の老朽化に伴う建替や、小倉総合特別支援学校のグラウンド整備を進めました。特別支援教育の充実にも今後も注力してまいります。

特別支援学校整備施設：2件

小倉総合特別支援学校整備：グラウンド整備  
利用者数：167人（児童生徒数、R5.5.1時点）

小池特別支援学校整備：現地建替等  
利用者数：163人（児童生徒数、R5.5.1時点）

## 総合療育センター整備

R4年度個人向け債の資金が使われています

### 小児用2クランクギャッチベッド



### 血液ガス分析装置



### 超音波診断装置



- 総合療育センターは障害のある方の医療・療育（リハビリテーション）のための施設です。
- 施設整備や医療機器等の整備により、利用者の増加や医療・福祉ニーズの多様化に対応できるよう機能強化を進めています。

医療機器の整備： 小児用2クランクギャッチベッド 1台  
血液ガス分析装置 1台  
超音波診断装置 1台



# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について⑥

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保育所等整備</li> <li>■ 小中学校等整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備</li> </ul>

## 保育所等整備

### NINARUふじまつ保育園（旧清滝保育園）改築工事



- 受入れ可能な児童数の増加、待機児童数0に向けた取組として、NINARUふじまつ保育園（旧清滝保育園）、貴船保育園を始めとする保育所の老朽改築に伴う施設整備や、老朽化直営保育所施設改修工事を14所について実施しました。
- また、放課後児童クラブの活動場所となる教室改修工事や新築工事などの整備を実施しました。

老朽改築等に伴う施設整備 対象施設7所 定員数830人

NINARUふじまつ保育園（旧清滝保育園）、金田保育園、貴船保育園、松美保育園、恒見保育園、到津保育園、石峰保育園

老朽化直営保育所等施設改修工事 対象施設7所 定員数520人

徳力保育所、蛭田保育所、貴保育所、黒崎保育所、陣原保育所、第1緑地保育センター、第2緑地保育センター

放課後児童クラブ整備 対象施設7所 定員数819人（うち増加分199人）

## 小中学校等整備

### 菊陵中学校 大規模改修工事 （改修前）



R4年度個人向け債の  
資金が使われています

### （改修後）



- 包摂的で安全な学習環境を整備するため、学校施設等の改修工事や学校トイレ整備等を実施しました。

学校施設等改修	小学校21校、中学校26校
大規模改修	小学校14校、中学校 5校
外壁改修	小学校11校、中学校 1校
不足教室対策	特別支援学校1校
学校トイレ整備	小学校10校
消防設備整備	小学校15校、中学校 9校
利用者数	小学校：349人/1校、中学校：374人/1校 （市内の生徒数/学校数で算出、R5.5.1時点）

# 令和4年度 サステナビリティボンドの主な資金使途について⑦

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 青少年育成・学習施設等整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備</li> </ul>
手ごろな価格の基本的インフラ設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 避難場所、消防施設等の整備・改修 ※必要不可欠なサービスへのアクセスにも該当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 防災機能の強化等</li> </ul>

## 青少年育成・学習施設等整備

### こども文化会館



- 「こども文化会館」「かぐめよし少年自然の家」「堀越キャンプ場」の老朽化した箇所の改修工事を実施することにより、社会教育施設としての役割の強化を進めました。

こども文化会館（空調設備更新工事） 利用者数：約8,000人/年

堀越キャンプ場（調理場屋根等改修工事） 利用者数：約3,000人/年

かぐめよし少年自然の家（体育館改修工事） 利用者数：約7,000人/年

## 避難場所、消防施設等の整備・改修

R4年度個人向け債の資金が使われています

### 八幡東消防団第4分団本部



### 若松消防団の消防車



- 地域防災拠点の強化を図るため、老朽化した消防施設の改修工事等を実施しました。
- 円滑な災害対応や救急業務の維持を図るため、消防施設の消防車や救急車を更新しました。

消防施設の長寿命化 18件

消防団施設整備 4件

消防施設の車両整備 13件



## 本資料に関するお問い合わせ先

---

北九州市財政局財務部財政課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号

TEL : 093-582-2003

FAX : 093-582-2070

E-mail : [zai-zaisei@city.kitakyushu.lg.jp](mailto:zai-zaisei@city.kitakyushu.lg.jp)

---